

総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会
小委員会の設置について

分科会等名：計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討 小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○総合工学委員会 機械工学委員会
2	委員の構成	25名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>本小委員会は「計算科学シミュレーションと工学設計分科会」のもとに24期において設置、開始し、25期において継続。</p> <p>これまで、国家プロジェクトなどを通じて多くのシミュレーションソフトウェアの開発が促進され、計算機シミュレーションの利用は、ものづくりをはじめとする様々な産業領域で拡大している。</p> <p>しかし、開発されたシミュレーションソフトウェアが産業分野における標準的な要素技術として定着し、真の意味で産業競争力強化に寄与しうるまでには、長期にわたる継続的な機能の高度化・改良・普及とこれを可能にする体制の構築・維持が必要。この点で、国産シミュレーションソフトウェアの成功例は多いとは言えない。</p> <p>24期では、計算科学の研究成果を産業競争力強化に寄与しうる技術として発展させて裾野を広げ、それにより計算科学基盤を強化するという好循環を実現するため、今後解決すべき技術的・政策的課題、必要とされる人材およびその育成、情報分野をはじめとする他分野との連携などについて関係者で議論を行った、さらに、シミュレーションソフトウェアの産業への実装を中心とした視点からの調査、活用や実用化に関するシンポジウム開催とアンケートを実施し、それらを基に「報告」を想定し、その骨子を作成した。</p> <p>25期では、前期と同様に様々な課題に対応した観点でシンポジウム等を開催し、最終的に報告書等にまとめる方向。</p> <p>委員の人数構成は産と学同じ程度とし、産学で課題を共有する。</p>
4	審議事項	<p>1. シミュレーションソフトウェアの産業利用の現状と課題の調査</p> <p>2. 計算科学を産業競争力強化に繋げるための技術的・政策的課題を議論し、報告書にまとめること</p> <p>に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	令和3年1月28日～令和5年9月30日
6	備考	※事実上24期からの継続